（十六日夕刊）

休刊日　毎月第一第三日曜
定價　一部二錢郵税　一ケ月六十錢　十五錢
廣告料　登録六十錢　掛値百錢増
發行兼編輯人　藤沼勝
福島縣平町四町十六番地
發行所　磐城新聞社
電話四五六四番

人生と禁慾可非論

齋藤　昌武

自分は今自分の若干自分の知識の不足をも顧みないで世界の偉人ですらその不可能なることを十分に信じてこゝに禁慾の是非を論ずるのは一寸大けさである。

けれども自分は過去二年間強いて多少にしろ人生の一部をよくよく知り得たことゝ思ひます。故に少くないけれどこれをよりよく知り得たことゝ思ひます。

石原純氏の「科學と人生」田中香雄氏の「趣味の大衆科學」の二著を研究した結果

一見するに至り少しく愚見をのべんとするものである。

勿論我等が節慾禁慾を守りたるに入生には三つの活動力に到る背景がある、一は食慾であり二は性慾であり三は睡眠である、これらの雜多なる社會上に有する人間慾の中前にのべたる三つは、その階級と貴賤のいづれたるを問はず人たるものゝ必要とするところである、食してよく働き而してよくいねて明日の活動にそなへるこゝに幾分か人生は形成せらるゝけれどたゝいわたゞ働く他にはしんぱ性に依らずとも何等かの趣味享樂がなく又求めづ、又求め得ぬ狀態にすがれたなら自然一人間のある初には異常な錯悟が生れ困するのではあるまいか

勿論遠く西洋に近く東洋に古今の偉人、志士がその生涯中何等の享樂性的滿足を得づくすぎ而も各自の哲學或は科學の研究に沒入したい調和したいこれは一見人生に清からざる愚の論の如くなれど決してそうでない、清き生活、正しい勤勞の餘暇にとるべき享樂は人間の必然求むべき否與へらるべきものと思ふ日本は少くともこれらに餘す研究か唯古代からあまり正しく發達せず又敎導されつゝあるが故に人間の必理、耐すべきの半面の無智より生ずる青年男女への異格悲哀はむしろ社會の當局者及び多分の抱當あるを語らしめたいと思ふ、急迫しつゝある人生問題として人間として吹きつのらせました。

さながら、時に乘じた海嘯の如く、茅屋に餓うる貧民を殺し、道に行き倒るゝものまた、その數を知らず米價は暴騰し、人情はすさみ、强盜暴民は所を問はず出沒してその慘狀は實に目もあてられぬばかりの荒みようでした。

「これもひとへに幕府政治の横暴からぢや」

「田沼大老の惡政を天の怨ませたもうて、かさせられた神業（カミワザ）ぢや」

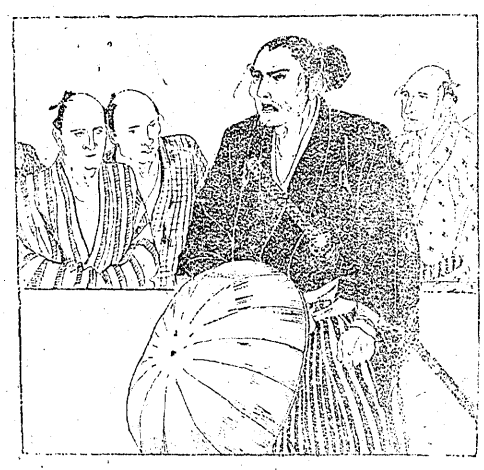
人民の間にもかうした幕府呪詛の聲は、漸々ひろがり始めました。

「ねゝ、今こそ！」

その時、決然として立つたのは失意の彦九郎正之でした。

始め學校建設を以て乘ぬての大志を全うしようとしてゐた彼は、一朝中井竹山の眞意を知るに至つて、俄然、失得の人とならねばならなかつたのでした。彼はその學校建設を以て正義の士を養成することを唯一の目的として居りました。また常々の口うらから、中井竹山も同じ心の人なのだらうと思つて居つたのです。

しかも事實は彼の感ひ違ひだつたのでした。竹山の考へでは彦九郎の企圖のたような天下正義の士を作るのではなくて、たゞ普通の學者を、しかも幕府政治



彼はどこにさまようはうといふのか。將へて見れば、それはあまりに無暴に近い企ででした

が、彼は少しもひるみませんでした

餓えたる人々の間に立つて、彼は幕政の非を鳴らしました

「聞かれよ、人々。この現在の飢饉を諸君はなんと見られるか。これは決して故意になさせられた神のたわむれではない。みな幕政の横暴、田沼大老の惡政に怒らせられた天のなされた仕業ぢや。

「日の光を拜まんとするものは、まづ出でて日の光を拂ふ悪い雲奴を追へ、食を得んとするものはまづ自らの目覺めて、食を奪つた惡大老を追ひ拂へ。

「また、米倉をもたゝく方々よ。そなたらには、その貧しい人々の餓えたる樣が見えませぬか。そなたたちは、貯への米をかゝへて、冠如としてその日を送らるゝであらうが、かのうえたる數多の人々は何として明日の日を生きて行きますのぢや、お願ひでござる此處に目覺めて下さい。彼ら貧しい人々も、みな同じ國の民、そなたゝちの兄弟では

男まさりの言葉

藤原　冬子

よく世間では傑出した女性のことを「男まさり」といふ形容詞を呼びます、その結果女性も亦世間の稱讃を獲するためか男の眞似をすることになります、これほど誤られたことはありません

女性を男性にしようといふのですから所詮その努力は無駄なものになります。たま〳〵手際よく男性の眞似をし了せた女性があつたとしてもそれは最下等の男性のことしかありません

女性には男性がいくら逆立ちしても出來ない徴特があります、それを生かさないで男性の眞似ばかりして居れば結局男性の尾につゞいてゐることになり社會の能率かいつても大きな損失でいつまでたつても男性中心の文化しか出來ません

女性の性能を生かすこゝに努力すれば男性の文化に對して女性の文化が當然に生れてくる譯でこの二つの文化が互に援け合つてこゝに初めて完全な文化となります、職業、點から見ても今のやうに男性の眞似はかりしてゐたのでは男性の職業を奪ふばかりでこの失業は金々深刻化する結果となります

ですから「男まさり」のかはれる時代には女性が最も適當してゐるのですから今後は女性を中心にした文化が盛んになるのではないかと思ひます。

幕末奇談　高山彦九郎

（163）

中西洋々作
市施長春畫

饑饉の嵐（一）

時——

天明四年に至つて、俄然大の災厄は、六十餘州津々浦々に至るまで饑饉の嵐を吹きつのらせました。

「なに、今こそ！」

彦九郎は、今こそ、さうだ、今こそ

「開かれよ、人々。この現在の饑饉を諸君はなんと見られるか。これは決して故意になさせられた神のたわむれではない。みな幕政の横暴、田沼大老の惡政に怒らせられた天のなされた仕業ぢや。

「日の光を拜まんとするものは、まづ出でて日の光を拂ふ悪い雲奴を追へ、食を得んとするものはまづ自らの目覺めて、食を奪つた惡大老を追ひ拂へ。

「また、米倉をもたゝく方々よ。そなたらには、その貧しい人々の餓えたる樣が見えませぬか。そなたたちは、貯への米をかゝへて、冠如としてその日を送らるゝであらうが、かのうえたる數多の人々は何として明日の日を生きて行きますのぢや、お願ひでござる此處に目覺めて下さい。彼ら貧しい人々も、みな同じ國の民、そなたゝちの兄弟では

明日の吉凶

舊五月六日
新二十七日
暦一日

▲一白の人　深入りすると
▲二黑の人　常業は遲々
▲三碧の人　正道に
▲四綠の人　悅び
▲五黃の人　是むなしく旅宿に
▲六白の人　恩惑の賣買に手を出
▲七赤の人　吉運の日なれども
▲八白の人　思惑の賣買に手を出
▲九紫の人　吉運の日なれども

依り進まば何物も我を妨ぐるを得ず▲四綠の人　悅び
▲東の間に消へて爭ひと變
じ易し注意▲五黃の人　是
れまで難みに難み居たる事
ども今日遂達す▲六白の人
少しの不服おりとも顏に出
ださず平和を願へ▲七赤の
人　次第〳〵に勢ひ付き來
平町自稱九星學者へ、御
注意ありがたよ、匿名で
なく御氏名を公表して下
さい

講談

人生と禁慾可非論

齋藤　昌武

自分は今自分の若干自分の知識の不足をも顧みないで世界の偉人ですらその不可能なることを十分に信じてこゝに禁慾の是非を論ずるのは一寸大けさである。

けれども自分は過去二年間強いて多少にしろ人生の一部をよくよく知り得たことゝ思ひます。故に少くないけれどこれを

石原純氏の「科學と人生」田中香雄氏の「趣味の大衆科學」の二著を研究した結果

一見するに至り少しく愚見をのべんとするものである。

勿論我等が節慾禁慾を守りたるに入生には三つの活動力に到る背景がある、一は食慾であり二は性慾であり三は睡眠である、これらの雜多なる社會上に有する人間慾の中前にのべたる三つは、その階級と貴賤のいづれたるを問はず人たるものゝ必要とするところである、食してよく働き而してよくいねて明日の活動にそなへるこゝに幾分か人生は形成せらるゝけれどたゝいわたゞ働く他にはしんぱ性に依らずとも何等かの趣味享樂がなく又求めづ、又求め得ぬ狀態にすがれたなら自然一人間のある初には異常な錯悟が生れ困するのではあるまいか

勿論遠く西洋に近く東洋に古今の偉人、志士がその生涯中何等の享樂性的滿足を得づくすぎ而も各自の哲學或は科學の研究に沒入したい調和したいこれは一見人生に清からざる愚の論の如くなれど決してそうでない、清き生活、正しい勤勞の餘暇にとるべき享樂は人間の必然求むべき否與へらるべきものと思ふ日本は少くともこれらに餘す研究か唯古代からあまり正しく發達せず又敎導されつゝあるが故に人間の必理、耐すべきの半面の無智より生ずる青年男女への異格悲哀はむしろ社會の當局者及び多分の抱當あるを語らしめたいと思ふ、急迫しつゝある人生問題として人間として吹きつのらせました。

さながら、時に乘じた海嘯の如く、茅屋に餓うる貧民を殺し、道に行き倒るゝものまた、その數を知らず米價は暴騰し、人情はすさみ、强盜暴民は所を問はず出沒してその慘狀は實に目もあてられぬばかりの荒みようでした。

「これもひとへに幕府政治の横暴からぢや」

「田沼大老の惡政を天の怨ませたもうて、かさせられた神業（カミワザ）ぢや」

人民の間にもかうした幕府呪詛の聲は、漸々ひろがり始めました。

「ねゝ、今こそ！」

彦九郎は、今こそ、さうだ、今こそ

「開かれよ、人々。この現在の饑饉を諸君はなんと見られるか。これは決して故意になさせられた神のたわむれではない。みな幕政の横暴、田沼大老の惡政に怒らせられた天のなされた仕業ぢや。

「日の光を拜まんとするものは、まづ出でて日の光を拂ふ悪い雲奴を追へ、食を得んとするものはまづ自らの目覺めて、食を奪つた惡大老を追ひ拂へ。

「また、米倉をもたゝく方々よ。そなたらには、その貧しい人々の餓えたる樣が見えませぬか。そなたたちは、貯への米をかゝへて、冠如としてその日を送らるゝであらうが、かのうえたる數多の人々は何として明日の日を生きて行きますのぢや、お願ひでござる此處に目覺めて下さい。彼ら貧しい人々も、みな同じ國の民、そなたゝちの兄弟では

廣告

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

乳の出る大妙藥アリ
平五　山野邊藥局

タクシーの御用命は
新しい氣持のよい
昭和タクシーへ
電話三四三番
サシミ

夜診
胃腸
科内
二十
病虫腸指
專門
部科内
淋病
婦人病
皮膚病
專門
部科外
松村胃腸科醫院
（平南町電話一〇七番）
診療時間

無料
檢眼
TOKIWAYA
皆樣の御眼に
ピッタリ合つた
眼鏡は……
專門醫師の
檢眼で……
正確で工合よい
時計は……
是非當店にて……
平壹　常盤屋時計店　電三九三

植田町本町
前田醫院
……入院隨時……　電一二四番

專門
內科一般
內科ハ何デモ診療致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六一五
川井內科診療所
電話七二二番
醫學士　川井重之
女醫　川井安子

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり葉書なり社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番
五四一番

生花教授
家元龍生派池坊
生花、盛花、投入自然
營業では御座いませんから趣味で御相手致し度うございます
平町仲町三（電話六二五番）
華道教授
天水庵　岡田華悅

磐城炭礦。最優等炭
◎石炭　正味十貫目　一俵金六十錢
東京瓦斯コークス一等品
◎コークス　一俵金一圓廿錢
木炭代用。無煙無臭。家庭用炭
◎玉炭　一箱金貳圓也
石炭ハ目方ノ正確ヲ期スル爲メ正味十貫目ヲ一俵ノ標準ト定メマシタ
配達迅速（電話二三七番）
磐城炭礦販賣總代理店
㋟阿部石炭商店

改稱廣告
初夏の候と成りました皆々樣愈々御健勝の段慶賀の至りに存じます幣店開業以來多大の御引立に預り厚く御禮申上ます
就ては小店儀好間村に弊店同一の屋號有ります爲、通信、其他間違の點多きを以て五月二十六日より平町高橋時計店事屋號精幸堂（セーコー）と改稱致しました。不相變御用御願申上ます
高橋時計店事改め
セーコー堂時計店
平町土橋通り

藥腸胃シホ
德廣第一
德廣は胃腸から
少スリた分シ
德廣藥株式會社

委員六名を擧げて町の事務檢査

町當局虐めの平町會大さわぎ

平町では土木委員の選擧事務委員青沼鉾太郎氏辭退により補缺員選任、町議當選無効の行政訴訟並に水道起債問題の締過報告等種々なる重要問題があるに拘らず四月以來一度も町會を開かぬと云ふので青沼氏等から町會召集を町當局に要求された結果十四日午後一時から急施町會を同町會議室に召集右重要案件を附議したが町當局虐めが目的の議員連から小理窟づくめの質問やら議員同志の仲間喧嘩やら殆終吐號し合つた結果意思疎通町當局を鞭達し滯帶せる事務を調査する爲め各派より一名づつの委員を出し更らに事務委員並に土木委員の選擧を行つて散會した

△町役場事務調査員 青沼鉾太郎(新)野崎孫藏(公正)鈴木光吉(實業)千葉彦治(交友)吉田寅之輔(同志)

△學務委員 齋藤敏賢

△土木委員 花澤兎五六 根本品藏、鈴木光吉、石山治三郎、佐藤岩次郎、荒川淺次郎、永山富廣 (以上)

納稅優良町村

收入役も表彰

平稅務署では從來納稅優良町村の表彰を町村のみで行つてゐたが完納町村はその收入役の努力が一通りでなく非常に氣の毒の立場にあるので本年度から優良町村及收入役も同時に表彰することに決定した

容易に纏まらぬ平魚市場の紛爭

此のまゝ長引く時は結局は共倒れ

平町魚市場の爭議は市場一派暴慢憤慨した組合側が白銀町に開設した魚取引所が横暴な組合側の巧妙な彈壓が奏功し遂に取引中止の悲況に陷つたのでその後組合側では一先つ四丁目の開拓して市場側と協定して飽まで市場側と對抗問屋取引の下に辛うじて營業を續ける一方鈴木若松の政民兩縣參事會員の銀町に開設した魚取引所が市場法による取引所としての正式許可を出願促進運動に狂奔して來たが最近になつて市場側の切崩し策に依つて次第に組合側の給結も緩み形となつたので市場側ではこの期を逸せず組合側との圓滿妥協に邁進する事となり近く重役會を開いて妥協案を協議する筈、尙ほこれに就いて某有力者は

市場側が假令組合の切崩しに幾分成功しても此の儘で行けば結局は共倒れの外は無くなるだらう此の際出來る事なら圓滿に解決させたいがまさか組合側でも全重役を更新しなければ復歸しないと言ふまいし一、二の重役を更新する程度で妥協出來るなら市場側でも相當讓歩すれば出來ない相談ではないのだから」云々

四倉繭市場

十四五日商況

四倉繭市場に於ける六日目十四日七日目十五日の相場次の如し

白最高三九圓九〇最低白三〇圓五〇錢黃最高三七圓八〇錢黃最低三三圓買馴白三五圓七〇買馴黃三六圓

(十五日相場)總買數二二(十四日)一貫白一九六九貫黃二六四貫最高白三八圓最低白三二圓八〇黃最高三四圓八四錢最低黃三二圓買馴白三五圓十〇錢黃三二圓三〇錢掛目白三五黃三四

余りに無法極まる家屋稅の標準

既に第二次委員の手に

石城郡下の町村

石城郡各町村の家屋稅調査第一次會は既に終了し第二委員の手に移つたが縣吏員か各町村に出張して示した家屋稅賃貸價格の標準が當然正確であらねばならぬのに杜撰粗漏極まるものである所からこれを標準にして作成された原案を附議した第一次委員會はどこでも問題となり延いて家屋稅は惡稅であり農村民の生活を脅威するものであるとなし漸次問題は喧しくならんとするに至つたが某委員は語る賃貸價格は現在の賣買値を見るか正當だと思ふ然るにこれの二倍乃至三倍にも當標準を示され、これに依らねばならぬものでは審議にあづかる要がないから自分は欠席するに至つたのである、殊に農村の住宅は發達をする爲めに何れも構へは大きく造られてゐるこれに對して二倍三倍に決定されては正に我々生活を脅威するものである今後家屋稅は農村民苦しめる惡稅として協力撤廢を期さねばならぬ

石城地方田植

早植督勵

廿日頃が中心

石城地方の田植は早場の磐崎村藤原地方並に郡南方部除き目下最盛期に入つ

平署管內消防組

五年度の事業

平署管內に於ける昭和五年度各消防組の事業計畫は左の如し

△平組一、常備五年以上の男子小學校生徒をして少年消防隊の組織 二、消防機械器具場夜警所消防會議所等の建築事 △內郷組一、第一小學校に通ずる道路修繕工事 二、ガソリン喞筒の購入 三、大字綴地內の溜地を修築し消防用貯水池に改む △湯本組と町地內消防用貯水池の設置△玉川農業關散を利用し組員出場小學校庭の土盛工事を行う 二、大字住吉岩土間の道路修築工場を組に於て謝負其の勞銀を得基本財產造成せんとす △小名濱組一、自動車喞筒購入の計畫 二、第一部第三部夜警所の建築工事 三、消防用貯水池の設置△江名組一南町地內橫六尺長十八尺深六尺の消防用貯水池の設置 二、同町北町地內に同上貯水池の設置 三、同町下神白地內に工費百五十圓の豫算にて同上貯水池の設置 四、江名町より全町神白に至る町道三百間組員奉仕的に出場改築の事△豐間組一大字豐間に鐵骨火の見梯子同一基增建設する事に決し目下設計中 二、大字豐間字樋口より猿田に通ずる道路改修工事三組の基礎を確立するには基本財產造成の必要を感ずるや切なり依つて組員出場大敷網(土俵網造り)漁業事業を請負ひ勞銀貯蓄せんとす △赤井組一、赤井第二小學校庭砂利敷工事 二、赤井巡査駐在所の土盛工事△好間一、水利不便なる大字川中子地內に消防用の貯水池設置 二、大字小谷作地內の村道架橋工事の組員の應援△笠輪村なし△水戸村一村有傳染病隔離舍口通ずる道路荒ないしあり故に組員社會奉仕として出場改修する事 三、永戸尋常改築に付敷地均等に組員應援する事△三坂組なし△高久組なし△夏井組一、大字菅田目、山崎間村道四百間の砂利敷工事(組員の社會奉仕)二、各部の夜警詰所の修理事業△飯野組一、大字下高久上荒川地內四ヶ所に交通上危險防止の見地の下に注意標を建設△神谷組一小學校及役場通路は常磐線鐵橋の下部にあり該路上に鐵橋の支柱出しありと交通困難なるのみならず有事に除く機械運搬に支障あるを以て村當局をして鐵道省に交渉し改修を圖る件二第二部消防手三十名被服新調三、第一部に鐵骨火の見を建設 四、農家閑散期に組員出場社會奉仕として大字上神谷、下神谷上片寄地內の村道改修工事△平窪組一、大字下平窪より中窪に至る道路改修の件 二、林野保護の目的として注意事項を表示したる注意表二十本を村內の要所に建設す△下小川組一、組員奉仕事業として大字下小川大字築場地內の道路の改修 二、大字柴原高物見地內に約一町歩に消防基本財產として植林事業の造成△鹿島村なし△小川組なし

心頭を滅却して

福家義純

夏は誰もがうるさがる時さと大いに戰はねばならぬ、自分自身としても、身體の保健衛生に細心の注意を要する、非常に危險な時であります。殊に今秋行はるゝ大演習に就いては縣民を大いに注意して、身の安全を期す事が大切であります而して、やゝもすれば「だらしのない生活」になり易い、この夏を、最も規律的に秩序ある樣生活したいものであります。「暑いやれ暑く」と、涼しい處を求めて避暑する人は別として、暑い私達は、至極安易であつて效果の多い避暑健康法を、云ふのであります。殊に今秋行はるゝ大演習に就いては縣民を「氣力體力を養ふと云ふ事を考へねばなりません。そこで私は是れを精神的避暑法として行つて居ります。よく禪家の人々から聞く文句「禪定は必ずしも山水を用ひず心頭を滅却すれば火も亦涼し」と私達はとてもこゝまでは行けないとしてもせめて心の持樣を强くして、暑さに打勝つ丈けの氣持を充實させ度いものであります。精神的避暑法と云つても別に變つたやり方ではなく、世間に有りふれた仕方ですが、私が從來なし來つた夏を左程苦にせず、寧ろ夏ならでは味はふ事の出來ない、夏の美點を共に味はひ、共に喜んで頂く爲めに私の實行した項目を掲げて御參考に供する次第であります。

一、夜更をセズ充分に睡眠して早起、習慣

二、每朝近くの神社佛閣に參拜し深呼吸をなす

三、勞働時間と休養時間を定む

四、如何に暑くとも裸體にならぬ

五、湯を以て體の汗を拭き

(一日入浴の他朝と晩)

六、畫寢は絕對にせぬ

七、暑い暑いと口癖にせぬ

八、讀書は危險性のものは讀まず修養的書物

九、食器は其の都度自分で洗ひをく

十、暴飲暴食せず胃腸の健全を殊に注意する

以上の十ヶ條を實行してゆきたいと思ひます。

平地方の自動車業

優良車を購入

殊に新シボレー時代

喜ぶべき現象

平警察署で先般行はれた本年度春季自動車定期檢査の結果が殊に平地方が昭和五〇年式シボレー新セダン型を購入し、乘客の安全と滿足を計つたため、當地方の自動車界も急に面目を一新した、これと共に當地有力「ボロ自動車」の巢窟のやうに云はれたに奮起した鈴木自動車營業者中、三井、菊地、尼子、芹澤各自動車部も一時にシボレー購入の奮發に賢明にも直ちに、一九三